

「同じ地域に学ぶ子どもたちの教育のために 小・中・地域の交流と連携を深めよう」

I 主題設定の理由

- 同じ地域に学ぶ子どもたちを教育する立場で、地域が抱える教育課題を共有し、その解決に向けた指導に結びつける。
- 地域との連携を強化し、「地域の子どもは、地域で教育する」という視点で地域の教育力向上を図る。
- 小学校・中学校の連携を強化し、小・中の系統的な教育のあり方を研究する。

II 研究の内容

1. 第1回 ブロック交流研究会（夏季臨地研修会）

【目的】・松里ブロックの松里中学校、井尻小学校、松里小学校の小中学校教職員が、地域研を行い地域の歴史や文化を学ぶことで地域理解を深める。

- ・児童・生徒の様子や地域の様子について情報交換することで、地域の教育課題を明らかにし、連携して児童・生徒の健全な育成を図る。

【日時・内容】 1：30～3：00 放光寺見学 学習会 3：15～4：00 情報交換会

【場所】 放光寺

【講師】 清雲様

2. 第2回 ブロック交流研究会（井尻小学校授業公開の参観）

【目的】・松里ブロック小中教職員が、小学校の授業の様子を参観して、児童の様子を把握する。

- ・学習や生活の様子を、情報交換することで、地域の教育課題を明らかにし、連携して児童・生徒の健全な育成を図る。

【日時・場所】 11月11日（水） 13：45～16：30 井尻小学校

【日程】 授業参観 13：45～14：30（5校時）

全体会 14：50～16：30（井尻小 図書室）

【全体会（情報交換）】

①各校の校内研究について ・各研究主任より

②児童生徒の様子（現状と課題）

- ・中学校の新入生の様子について（中1学年担任）小学校の児童の様子（6年生）
- ・中学校入学までに「身につけさせたい力」「身につけておいて欲しい力」について

3. 第3回 ブロック交流研究会（講師を招いての学習会）

【目的】・講師を招いて、3校の共通の課題について学び、児童生徒の健全な育成に役立てる。

【日時】平成28年1月20日（水） 15:30～16:45

【場所】松里小学校 新館3階 会議室

【内容】学習会「支援を必要とする子どもを理解し支える手立てについて」

【講師】要請カウンセラー 戸澤 順子先生

Ⅲ 成果と課題

〈成果について〉

- 臨地研修は、ある程度知っている場所でも改めて研修することで新しい発見もある。地域にあながら、ふだん訪れることのない放光寺の中を見学でき、また住職さんの貴重なお話を聞き史跡について学ぶ機会となり有意義であった。児童への学習指導にも生かしていきたい。
- 「小学校で身につけておいてほしい力」を中学校でまとめたが、それをもとに意見交流ができ、本音で話し合うことができた。小学校側は「中学入学までに付けたい力」「身につけておきたい習慣」について直接中学の先生方から聞くことができ小中連携について意識を高め合えた。また、小・中学校の学習内容について、系統表をもとに具体的に意見交換できた。
- 小・中の課題について学習面・生活面について情報交換し、解決策について話し合い共通理解を持つことができた。情報交換会は卒業生の様子や子どもたちの抱える課題などを共有することができる良い機会となった。3校で合わせられる所はないか探ることができた。同一歩調できる部分は中学に向けて指導していくことが大切だと思う。
- 支援を要する子どもたちが増えている現状で、戸澤先生のお話は大変タイムリーで、子どもたちの抱える課題から考えられる支援やできることを学ぶとても良い機会となった。また、エンカウンターを持っている力を味わう機会があったのでよかった。
- 小中連携の必要性を感じる一年間のブロック交流研であった。小中が児童や生徒の実態を持ち寄り、情報交換することで、「地区で子ども達を育てる」というテーマにも近づけたと思う。

〈課題について〉

- ▲スキー教室等で参加者が少ない時があった。研究日に学校行事は入れない方がよいのでは。
- ▲中学校での自学（松中ノート）につなげていくため、小中学校間で自学の情報交換を行いたい。
- ▲三回目の内容に続く形で、発達障害的な傾向が見られる児童生徒をどのように学級経営に位置づけ、生かし学級を成長させていくか、学力を保障していくかについての具体的な取り組みについて、（できたら教員を講師にしての）講演を聞きたいと感じた。
- ▲小中の交流をもっともっと増やしていくことで、さらに課題が見え、取り組むことが明確になってくると思うが、物理的に難しい。
- ▲隣地研修のマンネリ化。場所がだんだん限られてくる。

（ブロック長 金子 佐由美）